

CINÉ-CLUB

DE

L'INSTITUT

AVRIL 2023

INSTITUT
FRANÇAIS
東京日仏学院
Tokyo

Liberté
Créativité
Diversité

東京日仏学院シネクラブ | 2023年4月

QUE SERA, SERA...

MIA HANSEN-LØVE

ミア・ハンセン＝ラブ特集

ケ・セラ・セラ 流れ行く時間とともに

[会期] 2023.4.13 (木) → 4.23 (日)
Du 13 au 23 avril 2023

[会場] 東京日仏学院 エスパス・イマージュ
à l'Institut français du Japon - Tokyo

[ゲスト] ミア・ハンセン＝ラブ (オンライントーク)
Invité Mia Hansen-Løve (en ligne)

ミア・ハンセン＝ラブ Mia Hansen-Løve

オリヴィエ・アサイヤスの映画の女優、「カイエ・デュ・シネマ」誌の批評家を経て、監督デビューしたミア・ハンセン＝ラブ。カンヌ国際映画祭監督週間に出品された長編第一作目『すべてが許される』(2007)は瑞々しさに溢れているとともに成熟した演出で高い評価を得ました。場所の力や自然の要素、俳優たちの個性が豊かに生かされ、囁くように語られる親密な物語がやがて大きな流れ、普遍的なものへと到達していくハンセン＝ラブの映画を最新作『それでも私は生きていく』が5/5 (金・祝)に公開することを記念し、一挙上映します。初日4/13 (木)には彼女の心の一本、ジャン・ルノワールの『河』を上映した後、オンライントークでお迎えます！

主催：アンスティチュ・フランセ | 助成：アンスティチュ・フランセ パリ本部
アンスティチュ・フランセ 映画プログラム オフィシャル・パートナー：CNC、TV5 MONDE、笹川日仏財団
フィルム提供及び協力：クレスト・インターナショナル、ダッサイ・フィルムズ、レ・フィルム・ドゥ・ロザンジュ、キノ・フィルムズ、
マーメイド・フィルムズ、ミモザ・フィルムズ、フレイトタイム、ピラミッド・インターナショナル、井戸沼紀美、松井宏
organisé par l'Institut français du Japon
avec le soutien de : Institut français, CNC, TV5 MONDE, Fondation Sasakawa
Merci à Crest International, Dassai Films, Inc., les Films de Losange, Kino Films, Mermaid Films,
Mimoso Film, Playtime, Pyramide International, Kimi Idonuma, Hiroshi Matsui



TV5
MONDE





すべてが許される



あの夏の子供たち



グッバイ・ファーストラブ



EDEN エデン



未来よ こんにちは



ベルイマン島にて 2020 CG Cinéma - Neue Bioskop Film - Scope Pictures - Plattform Produktion - Arte France Cinéma



河

【最新作公開情報】
それでも私は生きていく
原題: *Un beau matin*
監督・脚本:ミア・ハンセン=ラブ 主演:レア・セドゥ
[2022年製作/112分/R15+/フランス・イギリス・ドイツ合作] 配給:アンブラグド
5月5日(金・祝)より新宿武蔵野館、シネスイッチ銀座ほか全国順次公開
<https://unfilm.com/soredemo/>

[上映作品 Programme]

ミア・ハンセン=ラブ監督作品
Films de de Mia Hansen-Løve

すべてが許される *Tout est pardonné*

[2006年/フランス=オーストリア/105分/デジタル/カラー]
出演:ポール・ブラン、マリ=クリスティーン・フリードリッヒ、ヴィクトワール・ルソー、コンスタン・ルソー
詩人志望のヴィクトールは、愛情深い妻アネットと小さな娘バメラと一緒にウィーンで暮らしている。自堕落な生活を続けるヴィクトールに堪りかねた妻は、娘を連れて離れていく。11年後、17歳になったバメラは、同じパリの街に父がいることを知り、会いに行くことを決意する。人と人が結びつき、離れ、そしてふたたび結びつくこと。生きることと死ぬことのほどに間を隔てる瞬間が、このフィルムにはある。——梅本洋一、「nobody」HP

あの夏の子供たち *Le Père de mes enfants*

[2009年/フランス=ドイツ/110分/35mm/カラー]
出演:キアラ・カゼッリ、ルイ=ドール・ランクザン、アリス・ド・ランクザン、エリック・エルモスニー
映画プロデューサーのグレゴワール・カンヴェルは映画愛とユーモアに満ち、家族を愛する魅力的な夫であり、父であった。しかし、ある日、自ら命を絶てしまう。悲しみと絶望の中、葛藤する母娘を訪れた新たな出発とは…

揺るがしい現実の重苦しさだけでなく、どこか清々しい思いすら彼女の映画に見だしてしまうのは、一回限りの喪失でさえも、それを包む大きな流れの環であるかのような気がしてしまうからだ。季節が繰り返すように、淡々と時間は流れていく。あるいは歌い継がれてきた古い歌が、もう一度歌われることで新たな生命を持つように。——結城秀勇、「nobody」HP

グッバイ・ファーストラブ *Un amour de jeunesse*

[2010年/フランス/110分/デジタル/カラー]
出演:ローラ・クレトン、セバスティアン・ウルゼンドフスキー、マリーヌ・ハーバード・ブレック、ヴァレリー・ボヌン
15歳のカミーユと19歳のスリヴァンは、互いに情熱的に愛し合っていた。しかし、夏が終わると、スリヴァンはカミーユのもとから去り、数ヵ月後には、手紙も途絶え、カミーユは打ちひしがれる。4年後、建築学に打ち込むようになったカミーユは著名な建築家、ロレンツと恋に落ちる。しかし、カミーユの前にかつて愛したスリヴァンが現れて…
今日、若い映画作家の中で、これほどまでに孤独を理解して撮っている作家は男性でも女性でもないだろう。そしてこれほど見事に孤独を人々に満たせる作家もいないだろう——フィリップ・アズーリ、「リベラシオン」紙

EDEN エデン *Eden*

[フランス/2014年/131分/デジタル/カラー]
出演:フェリックス・ド・ジブラ、ホーリン・エチエンヌ、グレッタ・ガーウィグ、ヴァンサン・マゲニュー
大学生のポールは親友とDJデュオを結成し、瞬間にシートの中心へと躍り出る。成功に酔いしれるポールだったが、やがて、彼の音楽の方向性は最先端のクラブミュージックと少しずつかけ離れていく。監督の実兄であるDJのスペン・ハンセン=ラブをモデルに、ダフト・パンクを中心とするフレンチハウス黎明期を題材に描いた青春ドラマ。
ミア・ハンセン=ラブは世代の一大絵巻のプリズムを通して、ポップ・カルチャーの運命を、まぎれもない優雅さと応用力で作品の中に包含してみせる。——ジュリアン・ジェステール、「リベラシオン」紙

未来よ こんにちは *L'Avenir*

[フランス=ドイツ/2017年/102分/デジタル/カラー]
出演:イザベル・ユヌール、アンドレ=カルコ・ロマン・コロンカ、エディット・スコブ
パリの高校で哲学を教えているナタリーは、教師の夫と暮らし、充実した人生を送っていた。ところがある日、夫からは離婚を切り出され、そして年老いた母も他界。ナタリーは自分の人生をあらためて見出していく。第66

回ベルリン国際映画祭で銀熊賞受賞。
最初はただ美しい映画を観ているつもりでも、最後には飾らない美しさ、決して圧倒されることのない複雑さ、そして自分を高めてくれる意味の豊かさに「圧倒されることとなる。——セルジュ・カガンスキー、「リベラシオン」誌

ベルイマン島にて *Bergman Island*

[フランス・ベルギー・ドイツ・スウェーデン/2021年/113分/カラー/デジタル]
出演:ピッキー・クリプス、ティム・ロス、ミア・ワシコウスカ、アンデル・シュ、ダニエルセン・リー
映画監督として認められ始めたばかりのクリスと、彼女のパートナーである有名監督トニーは、それぞれ脚本執筆のため、敬愛するベルイマン島に愛したスウェーデンのフォーレ島へやって来る。やがて島の不思議な力がクリスに働きかけ、彼女は自身の実らなかつた初恋を投影した脚本を書き始めるが…
本作の成功は、その演出にある。シネマスコープを使った見事なオープニングショットから、最後の魔法のような映像まで、私たちはこの映画監督のスタイルの美しさとエレガンスに心を奪われる——J・B・モラン、「レザンロキュプティール」誌

ミア・ハンセン=ラブのお気に入りの1本
Film de sa vie

河 *Le Fleuve*

[1951年/フランス/99分/デジタル/カラー]
監督:ジャン・ルノワール 出演:ノラ・スウィンバーン、エズモンド・ナイト、エイドリアンヌ・コリ、アササー・シールズ、バトリシア・ウォルターズ
ガンジス河流域で黄麻工場を営む英国人一家の娘たちが、隣家を訪れた元軍人に夢中になる。ルノワールが原作に惚れ込み、インドで撮り上げたハリウッド時代の最終作。初のカラー撮影が非常に美しい。
偉大な映画というのはすべて、ある経験についての物語である。つまりその映画は特殊から普遍に至る——ジャック・リヴェット

4.13 (木)	18:30	河 <i>Le Fleuve</i> (99分) 上映後、ミア・ハンセン=ラブとのオンライントークあり suivi d'une discussion en ligne avec Mia Hansen-Løve
	16:30	未来よ こんにちは <i>L'Avenir</i> (102分)
4.14 (金)	19:00	グッバイ・ファーストラブ <i>Un amour de jeunesse</i> (110分)
	12:30	すべてが許される <i>Tout est pardonné</i> (105分)
4.15 (土)	15:30	あの夏の子供たち <i>Le Père de mes enfants</i> (110分)
	18:15	未来よ こんにちは <i>L'Avenir</i> (102分)

4.16 (日)	14:30	EDEN/エデン <i>Eden</i> (131分)
	17:30	すべてが許される <i>Tout est pardonné</i> (105分)
4.21 (金)	19:00	あの夏の子供たち <i>Le Père de mes enfants</i> (110分)
	11:00	あの夏の子供たち <i>Le Père de mes enfants</i> (110分)
4.22 (土)	14:30	ベルイマン島にて <i>Bergman Island</i> (113分)
	17:00	未来よ こんにちは <i>L'Avenir</i> (102分)
4.23 (日)	11:00	ベルイマン島にて <i>Bergman Island</i> (113分)
	14:30	EDEN/エデン <i>Eden</i> (131分)

一律 1,100円
Peatix (<http://ifjtokyo/peatix.com/view/#/>)にて

3/31(金)14:00より発売
*窓口販売はございませんのでご注意ください。
*上映開始15分前開場・全席自由(整理番号順)・
上映開始10分後以降の入場はご遠慮ください。



【お問い合わせ】
東京日仏学院
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501
www.institutfrancais.jp/tokyo/

次回予告
「スクリーンで見よう
コメディ・フランセーズ
La Comédie-Française au cinéma
会期:2023年初夏開催予定

